目をこらして（3）

「サイのお面を作って」とU君にせがまれ、サイには自信がなかったのだけれど、U君の熱心さに負けて作ってみた。できあがるとU君はとってもうれしそうにそれをかぶり「ぼくは、サイのサムソン君！」と言ってM君と一緒に遊戯室へと走っていった。喜んでくれてよかったと思いながら少し遅れて遊戯室に行くと、後ろの壁に貼ってあったサイの大きな写真（下図）の前に二人は立っていた。「あら、こんなところにサイの写真！」と思いながら私も近付いた。U君は、M君に自分のお面を見せながら、「これが○○で」という風に写真のサイとお面のサイとを照らし合わせていった。すると、急にU君の動きが止まってしまった。違う部分があったのだ。U君はお面の☆印の部分を指でなぞりつつ「ここに、つのがもう一本あるんだったんだね」と小さくつぶやいた。どうなるのかな、と思い私は黙って見ていた。

少しして「まだ若いサイなの。つのはこれからはえてくるところなんだ！」U君はそう言い、二人は笑い合いながら駆け出していった。あとに残った私は、心がポッと温かくなった。

耳をすまして

娘は三月生まれ。待っても待っても誕生日が来ないと言って、よく嘆いていた。二月のある日、保育園からの帰り道、娘はいつも以上に確信をもって話し始めた。「やっぱりね、三月生まれはよくないよ。だってね、冬は風邪をひくでしょ」「?」。

この話の展開は何?と、仕事に疲れた私も思わず疑問を覚えて「何故?」と聞き返した。すると勢いよく説明が始まった。「だってね、今日ね、二月の誕生会があったんだよ。ずっとずっとね、まだかな、自分の番はまだかな、って待ってた大ちゃんがね、今日ね、風邪ひいて休んじゃったんだよ、かわいそうでしょ!冬は風邪ひくもん。夏に生まれたほうがいいよ」。

○○だから□□と子どもが考えるのはどんな時?どんな風に?だって!とムキになって考えたり、想像をめぐらして思いついたり、ともあれ、子どもの考えに心ひかれ歩みをとめる。

絵と文　宮里暁美
（目黒区立ふどう幼稚園）